

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

1日

先勝 危

旧3月23日

水曜

妙法蓮華経化城喻品第七

い ふ じゅ いっ さい ほう こ

以不受一切法故

「一切の法を受けざるをもつての故に」

「一切の法」とは、ここでは「教え」ではなく、一切の「事柄」という意味です。

「一切の法を受けざる」とは、一切の事柄によって影響を受けないということです。

周囲からの「事柄」に関する刺激に右往左往させられるのが私たち凡夫です。

「四諦」「十二因縁」の法門によって、事柄からの影響から抜け出し、ほんとうの仏道の入口に立つことができるのです。

法華經 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

2日

友引 室

旧3月24日

木曜

妙法蓮華經化城喻品第七

第二 だい に 第三 だい さん 第四 だい し 説法時 せつ ぼう じ

「五時のうち、第二第三第四の説法の時」

第一とはお釈迦さまが悟りを開いて「四諦」「十二因縁」を説いた二十一日間。

第二は小乗の機根の者に説いた十二年間。

第三は小乗から大乘に導くための八年間。

第四は大乘小乗の執着を捨てる二十二年間。

第五は一乗真実の教えを説いた八年間。

お釈迦さまも大通智勝仏も、第一の説法で「四

諦」「十二因縁」を説いたので、聴衆は第二から

第四の説法を迷いなく聞くことができました。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

3日

憲法記念日

先負 壁

旧3月25日

金曜

妙法蓮華経化城喻品第七

に い しや み
而為沙弥

「十六人の童子が出家して沙弥となった」

出家したばかりの者を「沙弥」といいます。

「沙弥」には、悪を止め慈悲の心を養うという意味があり、修行の動機も示しています。

他者を慈しみ、世の中のためになりたいという思いから修行に入り、学び智を磨き、さらに大きな慈悲が湧いてきたら、さらに学ぶという繰り返し、悟りに近づいていくのです。

十六人の童子が出家して沙弥となったその動機が慈悲の心を養うことなのです。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

4日

みどりの日

仏滅 奎

旧3月26日

土曜

妙法蓮華経化城喻品第七

ぼ さつ しや み

菩薩沙弥

「十六人の菩薩沙弥は皆悉く信受した」

十六人の沙弥たちは、仏の教えを聴き、心に信じるようになり、その信心を持ち続け、人にも説き、それを繰り返す菩薩の道を歩みます。

やがて仏の悟りに近づく者なので「菩薩沙弥」と呼ばれました。

大通智勝仏が説いた法華経の修行に励み、童子の沙弥のまま菩薩になったということは、年齢に関係がなく誰もが仏に成れるという法華経の寛大さを物語っています。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

5日

こどもの日

大安 婁

旧3月27日

日曜

妙法蓮華経化城喻品第七

じゅ

じ

ふ

き

受持不毀

「受持し毀らず」

「受持不毀」とは、仏さまの教えに背かず、仏さまの御心の通りに実行するということ。

信心をしても、自分の都合で教えを解釈し行動してしまうことはないでしょうか？

仏さまが説かれたままに、これを世に弘めなくてはならないはずなのに、個人の解釈や教団の都合で教えが歪められることを「毀る(そしる)」というのです。

受持し毀らず仏道を歩まねばなりません。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

6日

立夏

赤口 胃

旧3月28日

月曜

妙法蓮華経化城喻品第七

う

こん

ふ

じん

于今不尽

「今に尽きず」

たくさんさんの菩薩が人々を教化し、仏法に帰依した人々はその一生だけではなく、その師であった菩薩と共に幾度も生まれ変わり、仏に近づいていくといわれます。

その因縁は、遠い昔から、今現在を経て、遙か未来まで尽きることなく繋がっているのです。

二千数百年前にインドに生まれたお釈迦さまが説かれた教えは、さらに遠い昔から、遙か未来まで変わらずに伝わっていくのです。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

7

日

先勝 昂

旧3月29日

火曜

妙法蓮華経化城喻品第七

あ しゆく

阿閼

「悟りを得て心が動かないという名の仏」

ここからは十六人の菩薩沙弥が仏に成ったとき
の名前についての解説です。

東方に於いて仏に成った「阿閼」。

阿閼の「阿」は打消しの無や不を意味します。

「閼」は動くという意味なので、阿閼は「無動」
「不動」、つまり悟りを得て心が動かないことを
示す名前です。

心が無動なので、「歡喜国」という歡びに満ち
た国に住むことができるのです。

妙法蓮華經化城喻品第七

仏於天人大衆之中。說是法時。六百萬億。那由佗人。以不受一切法故。而於諸漏。

心得解脫。皆得深妙禪定。三明。六通。具八解脫。第二。第三。第四說法時。

千萬億恒河沙。那由佗等衆生。亦以不受一切法故。而於諸漏。心得解脫。從是已後。諸声聞衆。無量無辺不可称数。爾時十六王子。皆以童子出家。而為沙弥。諸根通利。

〈略〉

十六菩薩沙弥。皆悉信受。声聞衆中。亦有信解。其余衆生。千萬億種。

〈略〉

所說經法。受持不毀者。是人皆當得阿耨多羅三藐三菩提。如來之慧。

〈略〉

悉皆信解。以此因縁。得值四萬億。諸仏世尊。于今不尽。諸比丘。我今語汝。彼仏弟子。十六沙弥。今皆得阿耨多羅三藐三菩提。於十方国土。現在說法。有無量百千萬億。菩薩声聞。以為眷属。其二沙弥。東方作仏。一名阿閼。在歡喜国。二名須弥。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

8日

仏滅 畢

旧4月1日

水曜

妙法蓮華経化城喻品第七

しゆ

み

ちよう

須弥頂

「高い山の上から偏らず導く仏」

十六人の菩薩沙弥の二人目、東方に於いて仏に成った「須弥頂」。

仏教の宇宙観における世界の中心にある巨大な山が「須弥山」、その頂上という名の仏です。

全ての中央に存在し、偏ることなく正しい道を行くという意味と、一番高い所からすべてのものを導くという意味を持っています。

高い山の上から見守り導いてくださる存在があると安心して過ごすことができると思います。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

9

日

大安 觜

旧4月2日

木曜

妙法蓮華経化城喻品第七

し

し

おん

し

し

そう

師子音・師子相

「誰でも軽んじることなく全力で救われる仏」

十六人の菩薩沙弥の三人目と四人目、東南方にて仏に成った「師子音」と「師子相」。

師子は仏さまに喩えられます。

師子がどんな相手も全力で仕留るように、仏さまは迷える衆生の誰をも軽んじることなく全力で救われるからです。

「師子音」は教えを説くその声を師子に喩えた名前、「師子相」はその端正な姿を師子に喩え称えられた名だと考えられます。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

10

日

赤口 参

旧4月3日

金曜

妙法蓮華経化城喻品第七

こ

くう

じゅう

虚空住

「平等に導くために虚空に住む仏」

十六人の菩薩沙弥の五人目、南方にて仏に成つた「虚空住」。

「虚空」とは大空のこと。

大空はすべてを平等に覆っています。

そして無限に広がり包み込んでくれます。

美しいものも汚れたものも、善人も悪人も、す

べてを見捨てることなく絶大の慈悲をもって平

等に覆い導くために大空に住む仏さまのことを

「虚空住」と名付けられたのです。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

11

先勝 井

旧4月4日

土曜

妙法蓮華経化城喻品第七

じょう めつ

常滅

「常に差別を滅して、すべてのものを救う仏」

十六人の菩薩沙弥の六人目、南方にて仏に成つた「常滅」。

「滅」とは、すべてが無くなるという意味ではなく、差別を滅するという意味です。

凡夫は物事を差別し判断してしまいがちです。

社会的地位や貧富、国や人種などによる差別が争いのもとになります。

常に差別を滅して、すべてのものを救うという仏さまのお名前です。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

12

友引 鬼

旧4月5日

日曜

妙法蓮華経化城喻品第七

帝相・梵相

「大きな徳を具えた仏と煩惱を滅した仏」

十六人の菩薩沙弥の七人目と八人目、西南方に
て仏に成った「帝相」と「梵相」。

「帝」とは大きいという意味で、大きな徳があり
すべてのものを治める「帝（みかど）」の相を具え
ているのが「帝相」という仏さま。

「梵」とは淨いという意味で、一切の煩惱や罪過
を離れた淨らかな仏さまが「梵相」。

大きな徳をもって私たちを導く仏さまと、すべ
ての迷いを滅した淨らかな仏さまの名です。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

13

先負 柳

旧4月6日

月曜

妙法蓮華経化城喻品第七

阿^あ弥^み陀^だ

「無量の仏」

十六人の菩薩沙弥の九人目、西方にて仏に成つた「阿弥陀」。

「阿」は打消しの無や不を意味し、「弥陀」は物の限りをするので、「阿弥陀」は無量と直訳されます。

浄土教ではさらに意味を加え、無量寿(命が無量)、無量光(慈悲が無量)の仏とされています。

法華経においては、大通智勝仏の説法で悟りを開いた十方の諸仏として認識されています。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

14

仏滅 星

旧4月7日

火曜

妙法蓮華経化城喻品第七

度^ど一切^{いっさい}世^せ間^{けん}苦^く悩^{のう}

「世間の一切の苦悩から救う仏」

十六人の菩薩沙弥の十人目、西方にて仏に成った「度一切世間苦悩」。

世間の一切の苦しみや悩みから人々を救う仏さまです。

「度」とは海や川を渡らせるという意味で、苦しみや悩みの川を渡り、向こう岸の悟りの世界に渡らせてくださる仏さまです。

急な流れの川を渡る際に、仏さまが見守ってくださるだけで力になりますね。

妙法蓮華經化城喻品第七。

其二沙弥。東方作仏。一名阿閼。在歡喜国。二名須弥頂。

東南方二仏。一名師子音。二名師子相。

南方二仏。一名虚空住。二名常滅。

西南方二仏。一名帝相。二名梵相。

西方二仏。一名阿弥陀。二名度一切世間苦惱。

西北方二仏。一名多摩羅跋梅檀香神通。二名須弥相。

北方二仏。一名雲自在。二名雲自在王。

東北方仏。名壞一切世間怖畏。

第十六我釈迦牟尼仏。於娑婆国土。

成阿耨多羅三藐三菩提。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

大安 張

旧4月8日

日 水曜

15

妙法蓮華経化城喻品第七

た ま ら ば っ せん だん こう じん ずう
多摩羅跋耨檀香神通

「近づくものを自然と感化する仏」

十六人の菩薩沙弥の十一人目、西北方にて仏に成った「多摩羅跋耨檀香神通」。

「多摩羅跋耨檀香」はインドの非常に良い香りがする木の名前です。

その香りが自然と周囲に広がり、その木のそばに行く者の身に良い香が染み込むように、その仏さまに近づく者が皆その感化を受けて、自然に心も行ないもまた浄らかになっていくというお力を喻えた名前です。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

16

日

赤口 翼

旧4月9日

木曜

妙法蓮華経化城喻品第七

しゅ

み

そう

須弥相

「人々から仰ぎ見られる仏」

十六人の菩薩沙弥の十二人目、西北方に於いて
仏に成った「須弥相」。

仏教の宇宙観における世界の中心にある巨大な
山が「須弥山」、その雄大な姿を示した名です。
須弥山が多くの人々から仰ぎ見られるように、
その仏さまも一切の人々から仰ぎ見られるとい
う意味です。

皆からよく見えるということとは、皆をよく見守
ってくださいっているということです。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

17

日 金曜

先勝 軫

旧4月10日

妙法蓮華経化城喻品第七

うん

じざい

うん

じ

ざい

おう

雲自在・雲自在王

「雲のように衆生を覆い尽くす徳を持つ仏」

十六人の菩薩沙弥の十三人目と十四人目、北方にて仏に成った「雲自在」と「雲自在王」。

空を覆い尽くす「雲」のように、仏さまの徳は一切衆生を覆い尽くし、慈しんでくださいます。

「雲自在」とは雲のように自在に人々を慈しみ導いてくださるという意味の名前です。

「王」には「盛ん」という意味があり、「雲自在王」は、雲のように衆生を覆い尽くす徳が盛んで、人々を救うという意味の名前です。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

18日

友引 角

旧4月11日

土曜

妙法蓮華経化城喻品第七

えいつ さいせ けんふ い

壊一切世間怖畏

「怖れを打ち破る力を具えた仏」

十六人の菩薩沙弥の十五人目、東北方にて仏に成った「壊一切世間怖畏」。

一切世間の恐怖や畏怖を打ち破る力を具えたという名の仏さまです。

怖れは先が見えない状況が引き起します。

怖れをしつかりと見つめて、「何が怖いのか」自分の心と向き合うと、怖れの正体が見えてくるかもしれません。

怖れの正体を見極めるのがこの仏さまです。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

19

日

先負 亢

旧4月12日

日曜

妙法蓮華経化城喻品第七

釈迦牟尼仏

「娑婆世界の私たちを導いてくださる仏」

十六人の菩薩沙弥の十六人目、東北方にて仏に成ったのが「釈迦牟尼仏」です。

「釋迦」とは「能忍（よく一切の人を救う力を具えているということ）」の意。

「牟尼」とは「寂黙（周囲からの影響を受けず変わらないこと）」の意。

人を救う力と周囲から影響を受けない覚悟を具え、娑婆世界という苦悩の多い世界の私たちを導いてくださるのが釈迦牟尼仏です。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

20

日

小 満

仏滅 氏

旧4月13日

月曜

妙法蓮華経化城喻品第七

おう い ぜ ほう

ぜん にゅうぶつどう

応以是法

漸入仏道

「是の法を以て漸く仏道に入るべし」

「是の法」とは大乗の教えのこと。

仏さまの智慧は信じ難く理解し難いものです。

そこで欲望や迷いを離れる所から入り、迷いがなくなつたところでもう一歩進んで、人々を救

い仏と同じ境地を目指すのが常道です。

一足飛びに仏を目指そうと、迷いを取り除くことをせずにはやくもに進んでいたなら、過ちを繰り返し、逆方向に行くかもしれません。

日々の振り返りの積み重ねが大事です。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

21

日

火曜

大安 房

旧4月14日

妙法蓮華経化城喻品第七

みらいせ ちゅう しょう もん で し ぜ や

未来世中 声聞弟子是也

「未来世の中の声聞の弟子是れなり」

仏さまの教えに出会う縁を得るのは容易なこと
ではありません。

今こうして法華経に出会っているのは、過去世
に於いて仏さまの教えを聞くという「縁」があっ
たからだと『化城喻品』には説かれています。

そして未来世に生まれ変わって、自分の行いを
浄らかにする修行に励む声聞となり、その縁が
引き継がれて行くことが説かれています。

いのちとともに教えがつながっていくのです。

妙法蓮華經化城喻品第七

〈略〉

西方二仏。一名阿彌陀。二名度一切世間苦惱。西北方二仏。一名多摩羅跋梅檀香神通。二名須彌相。北方二仏。一名雲自在。二名雲自在王。東北方仏。名壞一切世間怖畏。第十六我釈迦牟尼仏。於娑婆国土。成阿耨多羅三藐三菩提。諸比丘。我等為沙彌時。各各教化。無量百千萬億。恒河沙等衆生。從我聞法。為阿耨多羅三藐三菩提。此諸衆生。于今有住。声聞地者。我常教化。阿耨多羅三藐三菩提。是諸人等。応以是法。漸入仏道。所以者何。如来智慧。難信難解。爾時所化。無量恒河沙等衆生者。汝等諸比丘。及我滅度後。未來世中。声聞弟子是也。

〈略〉

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

22日

赤口 心

旧4月15日

水曜

妙法蓮華経化城喻品第七

唯一仏乗

「ただ一仏乗を以て悟りに近づく」

本当の悟りを得るためには、自分の迷いを除く
だけではなく、世の中の人々の苦悩を取り除く
菩薩行を重ねるといふ一つの道、すなわち「一
仏乗」しかないのです。

しかし、理解の浅い者に初めからそれを言っ
ても伝わらないので、永い時間をかけて浅い教え
から、徐々に深い教えへと導くのです。
そのために何度も生まれ変わりを繰り返しながら、
仏さまの縁をつないでいくのです。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

23

日

先勝 尾

旧4月16日

木曜

妙法蓮華経化城喻品第七

け じょう ほう しよ たと

化城宝処の喻え

「幻の城を見せて励ます仏さま」

宝の城へと旅する一行の中には、目的地があま
りに遠くあきらめようとする者が出てきます。

そこで先達は幻の城を見せて休ませます。

そして先達はもう少しで宝の城にたどりつく
と励まして一行を導きます。

「旅の一行」は煩惱の悪道を歩み仏には成れない
とあきらめる私たち、「先達」は仏さま、「幻の
城」は方便の教え、「宝の城」は悟りの境地に
えられています。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

24日

友引 箕

旧4月17日

金曜

妙法蓮華経化城喻品第七

おけん どうちゆう

於險道中

かさん びやく ゆじゆん

過三百由旬

「険しい道の半ば過ぎ」

険しい道の半ば過ぎ、三百由旬という地点で、旅の一行の中にあきらめて旅をやめようという者が出てきました。

悟りを目指し発心してから信の成仏までの道のりが五百由旬、二乗の悟り（自分の煩惱を除くこと）を三百由旬に喩えています。

二乗の悟りで満足し、あきらめてしまったら、成仏を目指した甲斐がないと、仏さまは方便の教え（幻の城）を説いたのです。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

25日

先負 斗

旧4月18日

土曜

妙法蓮華経化城喻品第七

によとう しよ さ み べん

によ しよ じゅうじ

如等所作未弁 汝所住地

「ここは真の目的地ではない」

二乗の悟りで満足している者たちに、目的地はここではない、自分の煩惱を除くことができたなら、さらに進んで人を救うことに努めなさいと、仏さまは鼓舞します。

他者を救うために努めると、他者の歡びが自分の歡びとなり、前に進む力となります。

「幻の城」における休息の歡びとは、単なる歡樂ではなく、仏さまの智慧と慈悲による導きのたまものなのです。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

26日

仏滅 女

旧4月19日

日曜

妙法蓮華経化城喻品第七

ほう しょ ざい こん

宝処在近

「宝は近い」

「幻の城」で休息を得て元気を取り戻した一行に、先達はほんとうの「宝の城」はもう近いぞと、先に進むことを勧めました。

悟りの大目的は、一切衆生を救うことであり、そのためには自分の迷いを除くことができなければならぬわけですから、「幻の城」は方便の教えも大切です。

大目的を達成するために、自分の足元からしっかり見直す場が必要なのです。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

27

日

大安 虚

旧4月20日

月曜

妙法蓮華経化城喻品第七

ぶつ ほう ふ げん ぜん ふ とく じょうぶつ どう

仏法不現前 不得成仏道

「仏法現前せず、仏道成ずることを得たまわす」

「仏法不現前」とは、仏としての絶対の悟りに至らなかったということ。

「不得成仏道」とは、一切衆生を救済する力を具えるに至らなかったということ。

「仏法」とは心の悟り、「仏道」とは衆生を導く働き、この二つが併記されています。

大通智勝仏が十劫という永い時間坐り続けても、悟りも衆生を導く働きも得られなかった、それほどに仏法と仏道は深いということです。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

28日

赤口 心危

旧4月21日

火曜

妙法蓮華経化城喻品第七

しん

どう

お

いつ

さい

震動於一切

「一切を震動したもう」

人間はどうしても行きがかりの事情に囚われる
ものです。

善いと思ってもすぐ実行できず、悪いと思っ
てもすぐに止めることもできず、行きがかりの事
情に流されてしまうものです。

だからこそ、仏さまは世の中のあらゆるものが
震動するほどの変化を与えて、思い込みの価値
を見直させようとされたのです。

大決心をさせるための後押しです。

妙法蓮華經化城喻品第七

〈略〉

世間無有二乘。而得滅度。唯一仏乘。得滅度耳。比丘當知。如来方便。深入衆生之性。知其志樂小法。深著五欲。為是等故。說於涅槃。是人若聞。則便信受。譬如五百由旬。險難惡道。

〈略〉

此等可慙。云何捨大珍寶。而欲退還。作是念已。以方便力。於險道中。過三百由旬。化作一城。

〈略〉

若衆生住於二地。如来爾時。即便為說。汝等所作未弁。汝所住地。近於仏慧。當觀察籌量。所得涅槃。非真實也。但是如来。方便之力。於一仏乘。分別說三。如彼導師。為止息故。化作大城。既知息已。而告之言。宝所在近。此城非實。我化作耳。爾時世尊。欲重宣此義。而說偈言

大通智勝仏 十劫坐道場
仏法不現前 不得成仏道
諸天神龍王 阿修羅衆等
常雨於天華

〈略〉

為覺悟群生 震動於一切
東方諸世界 五百万億国
梵宮殿光曜 昔所未曾有
諸梵見此相

法華經 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

29

日 水曜

先勝 室

旧4月22日

妙法蓮華經化城喻品第七

仏知時未至

「仏未だ至らずと知らしめして」

大通智勝仏は悟りを得てから、すぐには教えを説こうとしませんでした。

教えを説く側が押し売りをして、軽々に伝えるものではありません。

仏さまは、教えを求める側がどうしても聞きたいと決心が固まるまで待つているのです。

經典には、三度にわたって教えを請うた後に、仏さまが教えを説く場面が多数あります。

機が熟するまで黙然として坐して待つのです。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

30

日 木曜

友引 壁

旧4月23日

妙法蓮華経化城喻品第七

ざい ざい しよ ぶつ ど じよう よ し ぐ しよう

在々諸仏土 常与師俱生

「在々諸仏の土に、常に師とともに生ず」

仏さまの滅度の後に法華経を聞いた者は、仏国土に生まれ変わるたびに、常に師の仏さまとともに生まれ変わり、教えを受け続けると説かれています。

仏さまと師弟の因縁は今世だけでなく、永遠にわたることが示されているのです。

この二句は僧侶の回向文に引用され、仏さまとの縁の深さと、来世でも衆生救済に努める使命の大きさを、遷化した僧侶に伝えるのです。

法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

5月

31

日

先負 奎

旧4月24日

金曜

妙法蓮華経化城喻品第七

とう

ほつ

だい

しょう

じん

当 発 大 精 進

「当に大精進を發こすべし」

自分の心に迷いがなくなっても、それは
本当の悟りではなく、さらに進んで一切衆生を
救うための智慧を具えようという決心をして、
努力を重ねなければならぬのです。

それが「大精進を發こす」ということです。

人を救い導くということは、口で説法すること
でも、經典読むことでもなく、心に迷いがなく
一挙取一挙動すべてで導くことができること、
つまり完全な仏に成るということです。

妙法蓮華經化城喻品第七

〈略〉

請仏転法輪 以偈而讚歎 佛知時未至 受請默然坐 三方及四維 上下亦復爾 散華奉宮殿
請仏転法輪 世尊甚難值 願以大慈悲 広開甘露門 転無上法輪 無量慧世尊 受彼衆人請

〈略〉

為無量億衆 說仏無上慧 各各坐法座 說是大乘經 於仏宴寂後 宣揚助法化 一一沙弥等
所度諸衆生 有六百万億 恒河沙等衆 彼仏滅度後 是諸聞法者 在在諸仏土 常与師俱生

〈略〉

言汝等苦滅 所作皆已弁 既知到涅槃 皆得阿羅漢 爾乃集大衆 為說真實法 諸仏方便力
分別說三乘 唯有一仏乘 息処故說二 今為汝說実 汝所得非滅 為仏一切智 当發大精進
汝証一切智 十力等仏法 具三十二相 乃是真實滅 諸仏之導師 為息說涅槃 既知是息已
引入於仏慧